

ごんげん

権現アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

面積	計： 6.75ha （三陸北部森林管理署）
設定目的 （管理方針書より抜粋）	岩手県岩泉町の小本川支流三田貝川上流に位置する、アカマツを主とする天然壮齡林。このアカマツの遺伝資源の保存を目的とする。
前回調査の評価・課題等	保護林設置目的であるアカマツ林の遺伝資源の保存、観察並びに学術上の考証に資するための森林が維持されている。
モニタリングの実施間隔	10年

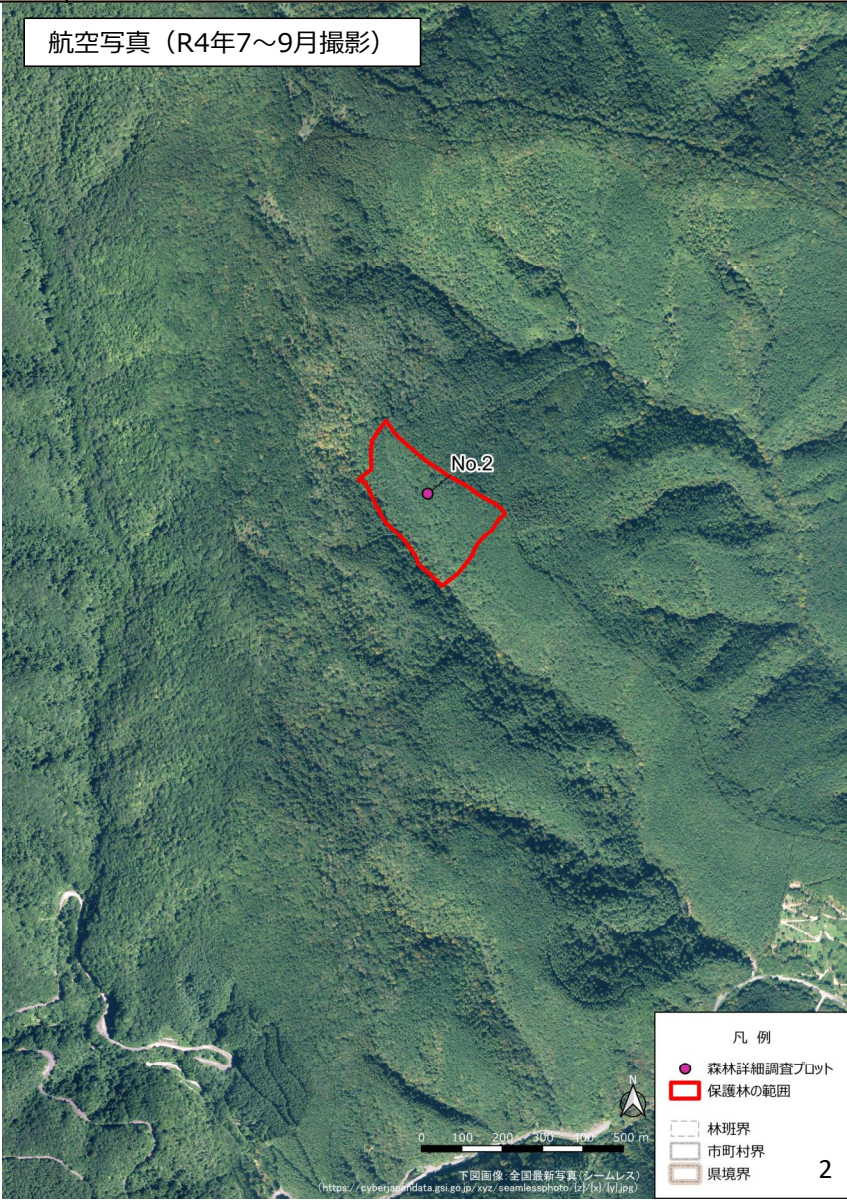
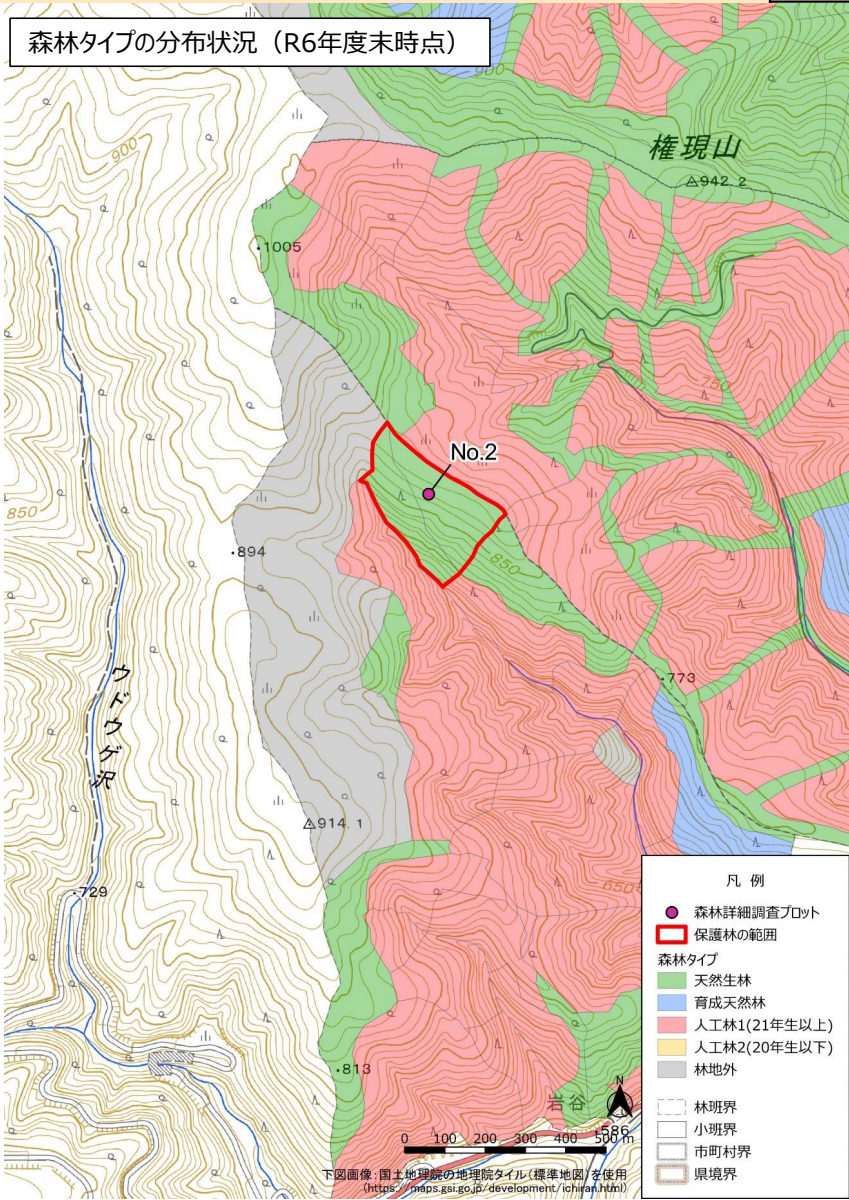
権現アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した調査 資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)

デザイン

アカマツを主とする天然
壮齡林である。

本保護林内及び周辺の
森林タイプの分布に変
化は確認されなかった。



権現アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)
--------	-------------------------

デザイン

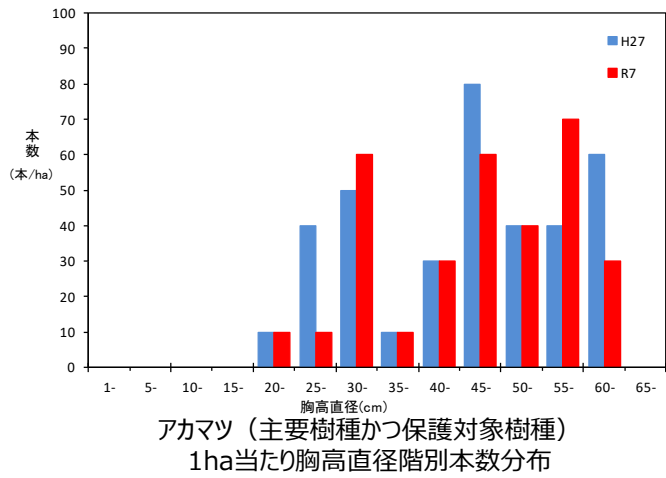
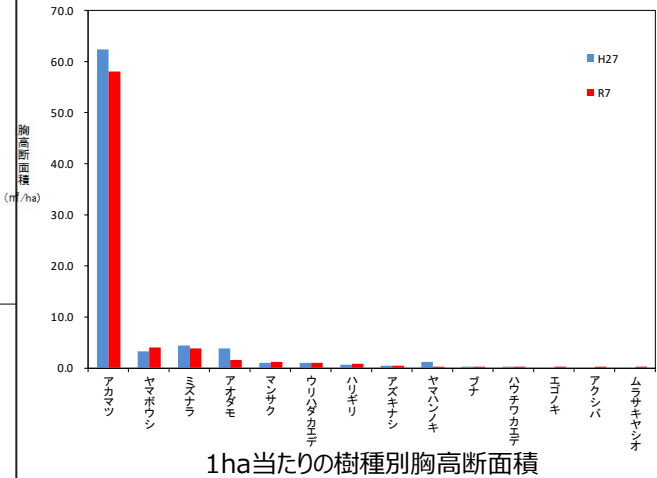
森林概況調査、森林詳細調査

プロットNo.2

	H27(10月1日)	R7(9月17日)	比較結果等
磁北方向			下層植生がやや減少しているが、大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

樹種	平均胸高直径(cm)		胸高断面積(m ² /ha)		胸高断面積割合	
	H27	R7	H27	R7	H27	R7
アカマツ	45.4	46.6	62.28	57.95	79.4%	80.7%
ヤマボウシ	7.0	5.0	3.38	4.13	4.3%	5.7%
ミズナラ	17.3	18.5	4.35	3.92	5.5%	5.5%
アオダモ	8.6	5.4	3.95	1.61	5.0%	2.2%
マンサク	6.6	5.4	1.06	1.20	1.4%	1.7%
ウリハダカエデ	7.0	8.1	0.96	1.00	1.2%	1.4%
ハリギリ	28.8	31.3	0.65	0.77	0.8%	1.1%
アズキナシ	13.8	16.0	0.37	0.50	0.5%	0.7%
ヤマハンノキ	20.6	18.5	1.22	0.27	1.6%	0.4%
ブナ	8.0	9.4	0.13	0.17	0.2%	0.2%
ハウチワカエデ	6.0	6.9	0.07	0.09	0.1%	0.1%
エゴノキ		2.3	0.00	0.09	0.0%	0.1%
アクシバ		2.0	0.00	0.06	0.0%	0.1%
ムラサキヤシオ		1.4	0.00	0.06	0.0%	0.1%
14種	-	-	78.42	71.83	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種及び保護対象種を示す。



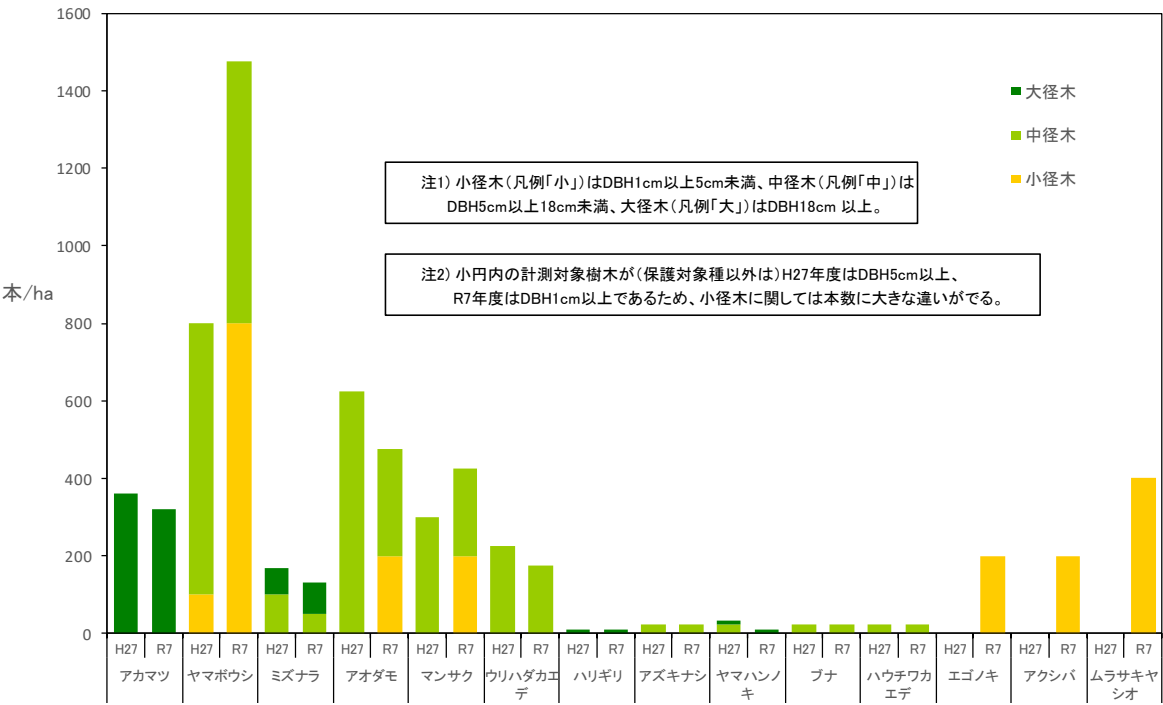
- ・アカマツが優占する針葉樹の成熟林であり、林床にヤマボウシ、スズタケ等が生育する。
- ・写真を比較する限り林相に大きな変化はなかった。
- ・今回の調査では14種が確認され、前回調査から3種増加した。
- ・アカマツの平均胸高直径は微増したが、胸高断面積は減少した。
- ・高木層、亜高木層において、その他の出現種及び胸高断面積に大きな変化はみられなかった。

デザイン

プロットNo.2

樹種	生育本数(本/ha)		本数割合	
	H27	R7	H27	R7
アカマツ	360	320	13.8%	8.2%
ヤマボウシ	800	1475	30.8%	37.9%
ミズナラ	170	130	6.5%	3.3%
アオダモ	625	475	24.0%	12.2%
マンサク	300	425	11.5%	10.9%
ウリハダカエデ	225	175	8.7%	4.5%
ハリギリ	10	10	0.4%	0.3%
アズキナシ	25	25	1.0%	0.6%
ヤマハンノキ	35	10	1.3%	0.3%
ブナ	25	25	1.0%	0.6%
ハウチワカエデ	25	25	1.0%	0.6%
エゴノキ	0	200	0.0%	5.1%
アクシバ	0	200	0.0%	5.1%
ムラサキヤシオ	0	400	0.0%	10.3%
14種	2600	3895	100.0%	100.0%

※緑セルは主要樹種及び保護対象種を示す。



1ha当たりの樹種別生育本数

- ・主要樹種であるアカマツの生育本数は1ha当たり360本から320本へと減少した。
- ・その他の高木層、亜高木層における確認種はおおむね前回調査と同様だが、各種の生育本数は、やや減少傾向にあった。特にアオダモの中径木の減少がした。
- ・低木層ではヤマボウシ、アオダモ、マンサク等の生育本数の増加が確認された。

権現アカマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した調査	資料調査、森林概況調査、森林詳細調査(1箇所)
--------	-------------------------

デザイン

森林詳細調査 下層植生調査結果

年度	H27	R7		重要種 ^注	
調査区	プロット全体	N区	S区		
低木層の植被率(%)	40	10	10	環境省RL	岩手県RL
低木層の優占種	ナツハゼ、ムラサキヤシオ	ウスノキ	ヤマツツジ		
草本層の植被率(%)	50	70	50		
草本層の優占種	スズタケ	スズタケ	スズタケ		

出現種数	36	15	13	0	0
ハウチワカエデ	○	○	○		
ミヤマガマズミ	○	○	○		
ムラサキヤシオ	○	○	○		
アオダモ	○	○	○		
アキノキリンソウ	○	○	○		
アズキナシ	○	○	○		
ウリハダカエデ	○	○	○		
ジンヨウイチヤクソウ	○	○	○		
スズタケ	○	○	○		
ヤマボウシ	○	○	○		
ウスノキ	○		○		
オオカメノキ	○	○			
チヨウリ	○	○			
ナツハゼ	○		○		
ヤマツツジ	○		○		
ヤマモミジ	○	○			
ヤマウルシ	○				
アオハダ	○				
アカイタヤ	○				
アキシバ	○				
イチヤクソウ	○				
イヌヨモギ	○				
イワガラミ		○			
オオバクロモジ	○				
オオバマンサク	○				
コシアブラ	○				
コマユミ	○				
スノキ		○			
ツルウメモドキ	○				
ツルツゲ	○				
ツルリンドウ	○				
ナンプトウヒレン	○				
ノッポロガンクビソウ	○				
ハリギリ	○				
ヒカゲスゲ	○				
ヒメカンスゲ	○				
ホオノキ	○				
ミスナラ	○				

注) 重要種の選定基準等は以下の通りである。
環境省RL:「環境省レッドリスト2025の公表について」(令和7年、環境省) 該当無し
岩手県RL:「岩手県レッドリスト(2024年度)」(令和6年、岩手県) 該当無し

- ・前回調査時より、種数及び低木層の植被率の減少がみられた。
- ・低木層の優占種が、ナツハゼ、ムラサキヤシオから、ウスノキ、ヤマツツジへと変化した。
- ・草本層では、植被率、優占種ともに大きな変化はなかった。

病虫・鳥獣・気象害の発生状況

項目	結果
病虫害	記録なし
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

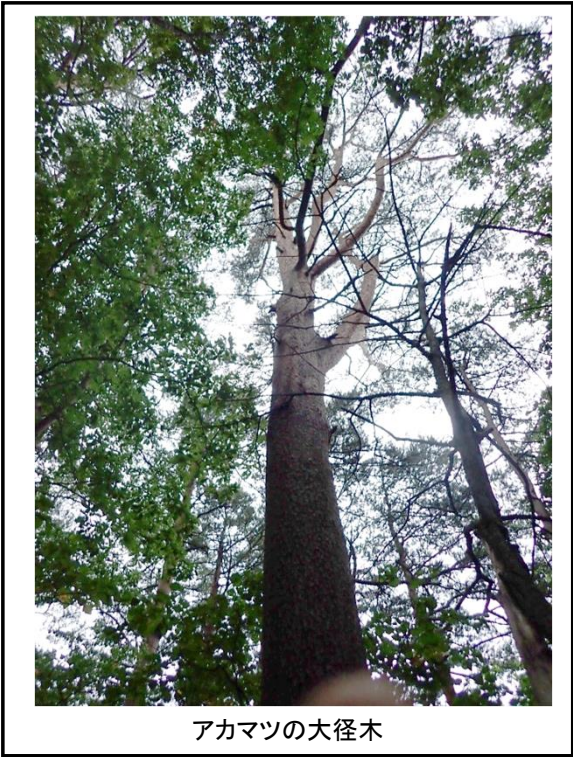
デザインに関する評価

基準	指標	結果
希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている	希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況	森林タイプの分布に大きな変化は確認されなかった。
		アカマツの健全な立木が確認されたが、生育本数は減少した。
		下層植生では、低木層の植被率の減少と優占種の変化がみられた。
		目立った森林被害は確認されなかった。

価値

保護対象樹種アカマツの生育状況

項目	結果
被害等	記録なし
アカマツの生育状況	プロット内のアカマツの大径木は健全な状態であった。
	プロット内での天然更新は確認されなかった。
	保護林内、踏査ルート上でもアカマツの生立木は多数確認された。
	踏査ルート上では、アカマツの実生や幼齢木はほとんど確認されなかった。



アカマツの大径木



保護林の景観



アカマツの実生

価値に関する評価

基準	指標	結果
保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している	保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況	保護対象樹種アカマツの被害は確認されなかった。 下層植生では、天然更新は確認されなかった。 踏査ルート上でも、アカマツの天然更新はほとんど確認されなかった。

利活用

・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかった。

利活用に関する評価

基準	指標	結果
森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている	学術研究での利用	学術研究等への利用は確認されなかった。

管理体制

【三陸北部森林管理署】

- ・国有林境界管理、その他管理業務等において巡視を行い、現況等を確認・把握している。
- ・巡視の結果、異常があれば速やかに署へ報告・対応する体制を整えている。

管理体制に関する評価

基準	指標	結果
適切な管理体制が整備されている	保護林における事業・取組実績、巡視状況等	関係機関により保護林及び周辺地域において林道点検、林野巡視が行われている。

まとめ・考察

現地調査結果総括・考察

調査年度		H27	R7
調査日		2015/10/1	2025/9/17
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)	SW、25°	
	局所地形	山腹平衡斜面	
林分状況	段階	成熟	成熟
	【高木層】主要構成樹種	アカマツ	アカマツ
	【高木層】樹高	70%	60%
	【高木層】樹高	18~29m	22~35m
	【高木層】DBH	40~62cm	30~63cm
	【亜高木層】主要構成樹種	ヤマボウシ	ヤマボウシ
	【亜高木層】樹高	80%	80%
	【亜高木層】樹高	6~12m	7~18m
	【亜高木層】DBH	-	6~18cm
	【低木層】主要構成樹種	ナツハゼ、ムラサキヤシオ	ヤマボウシ
	【低木層】樹高	40%	50%
	【低木層】DBH	1~3m	2~5m
林分等の状況	【低木層】樹高	-	2~7cm
	【草本層】優占種	スズタケ	スズタケ
	【草本層】樹高	50%	40%
	【草本層】高さ	-	0.1~1.2m
林況写真	高木層はアカマツが優占する。亜高木層にはヤマボウシ、ウリハダカエデ等が、低木層にはナツハゼ、ムラサキヤシオツツジ等、草本層にはスズタケ、ミヤマギサ等が生育する。林相に大きな変化はなく、現状が維持されていた。		アカマツが優占する針葉樹の成熟林。高木層には、広葉樹も混生する。立木は健全であった。アカマツの更新、低木等の天然更新は確認されなかった。亜高木層の広葉樹も生長しており、遷移の途中ともいえる。
			

※前回調査のセルの「-」は、記録なしを示す。

・今回調査でも胸高断面積割合の約8割をアカマツが占める結果となり、健全な状態の大径木（胸高直径30~60cm）も複数個体確認された。

・アカマツの胸高断面積合計及び生育本数は微減しており、生育本数割合では前回調査では約14%を占めていたが今回調査では約8%と減少し、亜高木層、低木層における広葉樹の生育本数割合に増加がみられた。これは、数個体のアカマツが枯死したため、その他の広葉樹の生長が促されたと考えられる。

・下層植生調査では全体的に確認種数の減少がみられた。その原因として、前回の調査範囲はプロット全体であったが、今回の調査範囲はプロット内の一部区域となったことが影響したと推測される。

・低木層では特にヤマボウシ、マンサク、ムラサキヤシオ等の広葉樹の生育数の増加が確認された。

・草本層については大きな変化はみられなかった。

その他、森林タイプの分布状況の変化や、気象害・病虫害・鳥獣害は特に確認されなかった。

全体まとめ・考察

・プロット内においてアカマツの実の確認されたが、天然更新は確認されなかった。

・到達ルート上でも幼齢木等の天然更新はほとんど確認されなかった。

・本林分はアカマツの生立木は健全であるが、生育数が微減している状況が伺えた。

・その他広葉樹の生長が確認されている状況を鑑みると、本林分は植生遷移の初期段階にあると推測される。

・本保護林は、現在は安定して維持されているといえるが、今後はアカマツ林から広葉樹林への遷移が進むと考えられる。引き続き継続的なモニタリングを実施し、森林の状況及びアカマツの生育状況に留意していくことが望ましい。

評価と今後の対応

項目	結果・対応等
今回の評価を踏まえた今後の対応について	・定期的な巡視を継続 ・10年後にモニタリングを実施
保護・管理及び利用に関する事項 (保護林管理方針書)	原則として自然の推移にゆだねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。 ※現行どおりとする